油懸山西岸寺〔下油懸町にあり。浄土宗にして知恩院に属す。本尊は阿弥陀仏にして、定朝の作、立像三尺、開基は雲海上人、西蓮社岸誉と号す、此文字を摘で西岸寺と称す〕

油懸地蔵〔門内の小堂に安置す。此地蔵尊は石像長五尺、作は詳ならず。いにしへより祈願ある者、灯油を此像に潅ときは忽所願満足せり。むかし山崎に住する油商人あり、ある時油を担て此門前を過るに、忽ち転て油を流す、周章して担桶を見れば余残幾もなし、只茫然として立居たり。暫くしてつくづく思ふやうは、是命なり、若しからずんば災害あらん、帰りさらんにはしかずとて、残す所の油を以て此石仏に潅て、一念の残執なく帰りけり。それより幸日々に栄て大幅長者となりぬ。是より世に伝へて願望ある輩は、油を懸て諸願を祈るに、今なほ霊験新なり〕

源空寺〔新大黒町にあり、浄土宗にして、円光大師の旧跡二十五箇所の其一にして、第十五番の霊場なり。旧は醍醐の奥炭山の光堂、法然上人閑居し給ふ旧跡なり。後世光堂は此寺の末寺となれば、其旧跡の号をこゝにうつす。本尊阿弥陀仏は恵心の作。又法然上人張子の影を安置す、粟生光明寺の御影と同時の作なりとぞ〕

観音寺〔観音寺町にあり。本尊観世音は立像一尺五寸ばかり。寺記曰、常盤御前の守本尊なりとぞ。今真言宗の僧これを守る〕

大光明寺〔大手筋にあり。浄土宗にして洛東黒谷に属す。本尊阿弥陀仏は春日の作にして、立像長三尺余なり。又阿弥陀仏一体方丈に安置す、坐像二尺三寸許にして、五劫思惟の相なり、御首は善導大師の作、体は和作なり。此尊像例年十夜中は本堂の尊像と入変厨子に安置して法会を執行す、故に十夜仏と号す〕

薬師堂〔門内の東にあり、此尊像は春日の作なり。毎月宵薬師には群参ありて市店多し〕

本教寺〔備後町にあり。法華宗にして洛の本法寺に属す。開基は日受上人、福昌山と号す〕

金札宮〔鷹匠町にあり。祭神天太玉命、一説には橘良基の霊、あるひは白菊翁ともいふ。いにしへは久米村にありて神社巍々たり。文禄年中に秀吉公城山に遷して守護神とし給ふ、慶長の落没によつて此地にうつす。例祭は九月十五日、社僧喜運院守る〕

大黒寺〔同町西側にあり。仁和寺院家尊寿院に属す。本尊大黒天は弘法の作、脇士に不動、毘沙門を安ず、又脇壇に観世音を安置す。是古への本尊なり。慶長年中の草創にして薩州の太守の祈祷所なり〕天神社〔竹中町にあり。兼崎氏守る。又竹中の清水あり〕

西方寺〔風呂屋町にあり、東本願寺に属す、古は金札宮の旧地にありて、久米神宮寺と号す。親鸞聖人の弘法に浴し西方寺と改む。金松氏の末葉にして、今廿四輩の列となる〕

聖恩寺〔京町五丁目の東裏にあり。禅宗黄檗派にして無本寺なり。本尊は釈迦仏、開基は法雲和尚〕

西本願寺懸所〔新町七丁目にあり、勝龍寺と号す〕

森住吉社〔住吉町にあり、大椋神社と号す。いにしへは森村に鎮坐あり、文禄年中森村の民家を此地に移しける時、神社も共にうつす〕

明寿院〔升屋町にあり、真言宗にして醍醐理性院に属す。本尊には青面金剛を安置す〕

光照寺〔革屋町にあり、浄土宗にして知恩院に属す。本尊阿弥陀仏は運慶の作、開基は晃誉上人、文禄四年の草創なり。又阿弥陀の像一体を安置す、湛慶の作なり。これを麦干の弥陀と称す、当寺の縁起にあり〕